

ツアー番号
LKNJG6STQB

秘密の逃避行（19日間）

19日間・18泊　ドライバーガイド付きプライベートツアー

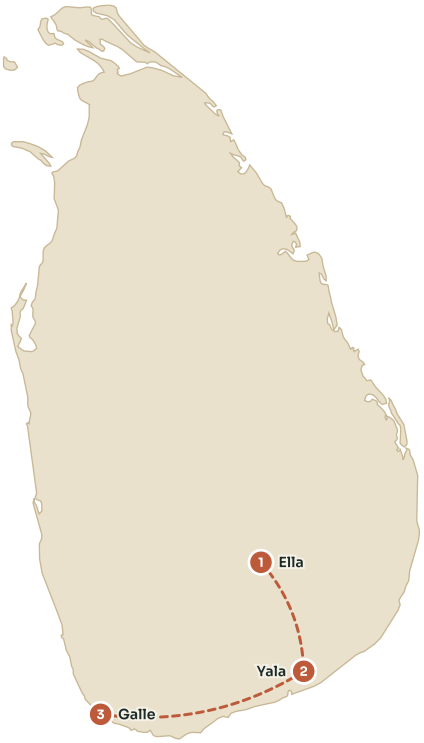
AI生成画像・実際の写真ではありません

このツアーについて

この19日間のプライベートツアーは、スリランカの全域をカバーしています。西海岸、文化三角地帯、丘陵地帯、南東部の低地、南海岸を回り、ゆったりとしたペースで進みます。複数の連泊が組み込まれており、本当の休息を楽しめます。旅行者はネゴンボのビーチから始まり、ダンブッラとポロンナルワの古代都市を経由して内陸に移動し、キャンディとヌワラエリヤの紅茶の国に登り、エラに下降してヤラの野生動物を楽しみ、ガレの周辺のビーチでの長めの滞在で終わります。

ハイライトには、シギリヤの岩城、ダンブッラの洞窟寺院、キャンディの歯舎仏塔、ペラデニヤの王立植物園、ホートンプレーンズとワールズエンド、ナヌオーヤからエラまでの列車の旅、ヤラ国立公園でのサファリ、ガレ砦の歴史的な街並みが含まれます。途中の村と農園の体験には、シギリヤ近くでの牛車乗車とカタマランサファリ、マタレ近くのスパイスガーデン訪問、ヌワラエリヤ近くの稼働中の紅茶農園ツアーがあります。

このツアーのペースは、特にエラでと最後のガレでの日々で、余暇の日が何日かあります。これは詰め込まれた観光スケジュールではなく、深さと休息時間を望む旅行者向けのツアーです。地域間の移動は、始終プライベートな車と運転手ガイドで行われます。



日程詳細

1日目　空港 → ネゴンボ(1〜2日目)

西海岸のネゴンボで2日間過ごし、旅の始まりをゆったりと過ごします。ネゴンボは古くから漁業の伝統が続くビーチタウンです。



ネゴンボ・ビーチ

ネゴンボの砂浜は島の西海岸に広がり、沖合では何世紀も続く漁業が今も行われています。訪れる人はマリンスポーツやサンゴ礁・熱帯魚とのダイビングを楽しむことができ、ダイバーは岸近くに沈む50年前の難破船を探索することもできます。

AI生成画像・実際の写真ではありません

3日目 ネゴンボ → ダンブッラ

内陸のダンブッラへ向かい、途中ピンナワラ・エレファント・オーファナッジ(象の孤児院)に立ち寄ります。



ダンブッラ黄金寺院

この石窟寺院群は紀元前1世紀にまで遡り、仏陀の生涯を描いた古代壁画や、数百体の仏像・諸神の像が5つの主要な洞窟内に収められています。境内には「神聖なる王の洞窟」「偉大なる王の洞窟」「偉大な新僧院」が含まれ、洞窟から少し離れた場所には巨大な黄金の仏像が立っています。

Lankapic · CC BY 2.5



ピンナワラ・エレファント・オーファナッジ

サバラガムワ州ピンナワラ村にあるこの施設は、自然の生息地を失った、あるいは迷子になった子象たちを保護しています。現在では約70頭の象が暮らし、世界最大の飼育象の群れとなっています。

Bernard Gagnon · CC BY-SA 3.0

4日目 ダンブッラ → シギリヤ → ダンブッラ

5世紀の岩の要塞シギリヤへの日帰り旅行と、ダンブッラ近郊での村体験を楽しむ一日です。



シギリヤ・ロック・フォートレス

5世紀にカーシャパ王のもとで築かれたシギリヤは、ライオンの爪を模したアーチをくぐって入場することから「獅子の岩」と呼ばれています。訪れる人は有名な古代壁画を眺めながら急な階段を登り、段々になった庭園、今も機能する貯水槽、かつての宮殿へ続く通路へと至ります。

Wrobell · CC BY-SA 3.0

村体験

この日は牛車に乗って田園地帯を巡り、穏やかな湖でカタマラン・サファリを楽しみ、収穫を待つ水田地帯を歩きます。伝統的な料理のデモンストレーションの後には、薪の火で作られ蓮の葉に盛られた家庭料理の昼食が用意され、スリランカの村の暮らしを味わうことができます。

5日目 ダンブッラ → ポロンナルワ → ミンネリヤ → ダンブッラ

中世の都ポロンナルワを訪れ、ミンネリヤ国立公園でサファリを楽しみます。



ポロンナルワ

約800年前、スリランカの中央平原はポロンナルワから統治され、当時は市場や数多くの寺院が並ぶ商業・宗教の中心地として栄えていました。遺跡群は今もその全盛期の街の姿を明確に伝えています。

Bernard Gagnon · CC BY-SA 3.0



ミンネリヤ国立公園

ミンネリヤ国立公園での3時間のサファリでは、低木地帯や森林を巡りながら象をはじめ、他の哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類を見るチャンスがあります。5月から10月にかけては、150頭を超える象が一か所に集まる「グレート・エレファント・ギャザリング」で知られています。

Stuart Pinkney · CC BY 2.0

6日目 ダンブッラ → マータレー → キャンディ

マータレー近郊のスパイスガーデンを経由してキャンディへ向かい、その後この街で最も神聖な場所を訪れます。

ユーフォリア・スパイス・アンド・ハーバル・ガーデン

スリランカのスパイスの都として知られるマータレー近郊にあるこの庭園では、元々の性質を保つ熱帯気候のもとでスパイスやハーブが栽培されています。ガイド付きのスパイスツアーでは植物の用途やアーユルヴェーダの役割について説明され、複数の言語での解説も用意されています。



仏歯寺

このユネスコ世界遺産は、仏陀の聖なる歯の遺物を納め守るために16世紀に建てられました。通路や広間は赤、クリーム、黒で装飾され、彫刻の施された柱や金箔を施した像が随所に見られます。

A.Savin · FAL

7日目 キャンディ → ペラデニヤ → キャンディ

キャンディ郊外の王立植物園を探訪する一日です。



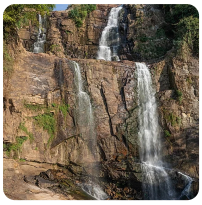
ペラデニヤ王立植物園

19世紀初頭に設立されたこの植物園は広大な敷地を持ち、蘭やスパイス、薬用植物を含む4,000種以上の植物が栽培されています。訪れる人は珍しい樹木が並ぶ並木道を歩き、カノンボールツリーを見学し、吊り橋を渡り、生垣の迷路を巡ることができます。

Bernard Gagnon · CC BY-SA 3.0

8日目 キャンディ → ヌワラエリヤ

滝や茶園に立ち寄りながら高原地帯へと向かい、イギリスの田園地帯を思わせる高原の町ヌワラエリヤへ到着します。



ランボダの滝

ランボダの滝はスリランカで11番目に高い滝です。

A.Savin · FAL

マックウッズ茶園

この茶園のガイド付きツアーでは、茶の種類や加工方法、セイロンティーの品質を生み出す要素について学びます。スリランカにおける商業的な茶栽培は、1824年に中国から持ち込まれた茶の苗木がペラデニヤの庭園に植えられた後、1852年にイギリス人プランター、ジェームズ・テイラーがキャンディのルールコンデラ農園に定住したことから始まりました。



ハッカラ植物園

この庭園には木陰の並木道やカラフルな迷路があり、散策を楽しむことができます。

Own work of Buddhika Mawella · CC BY-SA 3.0



グレゴリー湖

この湖畔を歩くことで、一日をゆったりと締めくくることができます。

Rehman Abubakr · CC BY-SA 4.0



ヌワラエリヤ

茶の産地の中心に位置するヌワラエリヤは、イギリス人がイングランドの田園風景を思わせるように築いた町で、ジョージアン様式からクイーン・アン様式まで様々な邸宅、手入れの行き届いた芝生、英国国教会の教会、ゴルフコースがあります。標高約6,200フィートに位置し、空気は際立って涼しく爽やかです。

Abdul malik77 · CC BY-SA 4.0

9日目 ヌワラエリヤ → ホートン・プレインズ → ヌワラエリヤ

草原地帯と壮大な展望で知られるホートン・プレインズ国立公園への日帰り旅行です。



ホートン・プレインズ国立公園

オヒヤに位置するこの公園は、高原の草原と雲霧林が組み合わさり、多くの固有種が生息しています。見どころは「ワールズ・エンド」と呼ばれる断崖からの壮大な景色と、冷涼な水しぶきを感じられるベイカーズ・フォールズで、周辺では考古学的発見も見つかっています。

Faslan at en.wikipedia · CC BY-SA 3.0

10日目 ヌワラエリヤ → エラ

午前中はハイキングまたは風光明媚な鉄道の旅を選べる中、エラへ向かい、町では自由時間を楽しみます。

エラ・ロック

約3時間のハイキングでは、ナムヌクラ山脈とリトル・アダムス・ピークを望みながら、この地域で最も高い展望地点のひとつであるエラ・ロックへ登ります。頂上からはバンダラウェラ山脈、プーナガラの丘、ナランガラ、エラ・ギャップ、バドゥッラへの鉄道線路といった目印を見ることができます。



ナヌオヤ〜エラ間の鉄道の旅

この風光明媚な鉄道の旅は、茶畑や霧に包まれた山あいの村々、ハプタレー周辺の風景を通り過ぎ、車窓からは山々や森林、滝を眺めることができます。

Chamal N · CC BY-SA 3.0



エラ

残りの時間はホテルでゆったり過ごすか、エラの町を散策してお過ごしいただけます。

Dan arndt · CC BY-SA 4.0

11日目 エラ

エラで一日を自由に過ごします。

12日目 エラ → ヤラ

エラからヤラへ移動し、ホテルにチェックインします。

13日目 ヤラ

スリランカで最も有名な国立公園のひとつでサファリを楽しむ一日です。



ヤラ国立公園

島の南東海岸に位置し、国内で2番目に大きな国立公園であるヤラでの3時間のサファリでは、スリランカヒョウ、野生のスイギュウ、スリランカのナマケグマ、大きな象の群れを見るチャンスがあります。この公園には他にも多くの哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、無脊椎動物が生息しています。

Ranmith Welikala · CC BY-SA 4.0

14日目 ヤラ → ウサンゴダ → ルマッサラ → ガッレ

海岸沿いにガッレへ向かい、ラーマーヤナ伝説にゆかりのある2つの地に立ち寄った後、旧市街を探索します。



ウサンゴダ

この沿岸地域は著しく木が少なく、蛇紋岩には有毒な重金属が含まれているため、特定の小さな植物しか生育できません。地元の伝説では、この不毛な大地はハヌマーンの燃える尾によって焼かれた土地であるとされ、またラーヴァナ王の空飛ぶ戦車の発着場であったとも伝えられています。

A.Savin · FAL



ルマッサラ

ウナワトゥナビーチ近くにあるこの丘の頂には白い仏教のダーガバが建っており、ハヌマーンがサンジーワニー草を求めてドロナギリ山をランカへ運ぶ途中に落とした断片のひとつとされる、スリランカに5つあるとされる場所のひとつです。この丘はまた、シータがランカに留まっていた間の避難場所であったとも言われています。

AI生成画像 · 実際の写真ではありません



ガッレ・フォート

ガッレはかつてポルトガルとオランダの拠点であり、その要塞はアジアでも特に保存状態の良い砦のひとつです。旧市街には博物館や灯台があり、オランダ語の名前が付いた石畳の通りはガイドと一緒に徒歩で巡るのがおすすめです。

Rovin Shanila · CC BY-SA 4.0

15日目 ガッレ(15〜18日目)

ガッレ周辺の南海岸で4日間、自由に過ごします。



ガッレ・ビーチ

ガッレ周辺のビーチは、暖かな陽光、柔らかな砂浜、涼やかな海風が揃い、海岸沿いには高級ホテルが点在しています。訪れる人は産卵のために上陸するウミガメを観察したり、海に沈む夕日を楽しんだり、ジェットスキーやウィンドサーフィンなどのマリンスポーツに参加したりできます。

Rovin Shanila · CC BY-SA 4.0

19日目 ガッレ → バンダラナイケ国際空港

ゆったりとした朝と朝食の後、空港へ移動し、帰国の便に搭乗します。

含まれるもの

含む

- Transport in a Private Vehicle, inclusive of all chauffeur accommodation.
- Service of an English-Speaking Chauffeur Guide throughout the tour.
- All prevailing taxes and service charges.

含まない

- Hotel Accommodation.
- International / Domestic Airfare.
- Any expenses of personal nature.
- Entrance fees to the respective sites.